

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和元年度
福島県意見交換会(第3回)**

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2020年1月31日

● 目次

1. 意見交換会の概要
2. 「実践の場」企画背景
3. 「実践の場」概要
4. 「実践の場」開催報告
5. 次年度扱うテーマのアイデア
6. 意見交換

「実践の場」の振り返りと次年度の取組

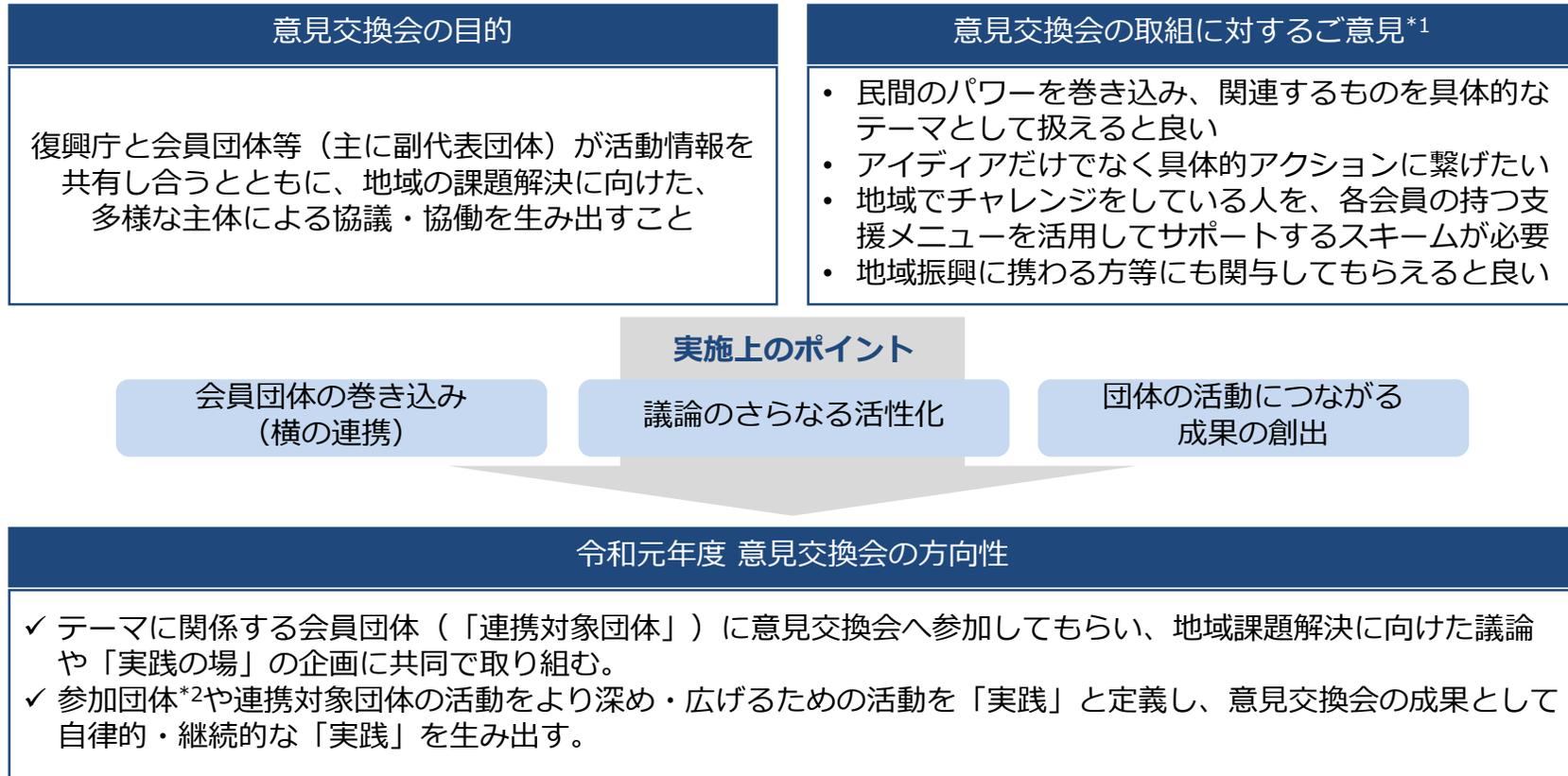
<参考資料>

- 福島県「実践の場」概要
- 宮城県「実践の場」概要（予定）

● 1. 意見交換会の概要 — 目的・今年度の方向性

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

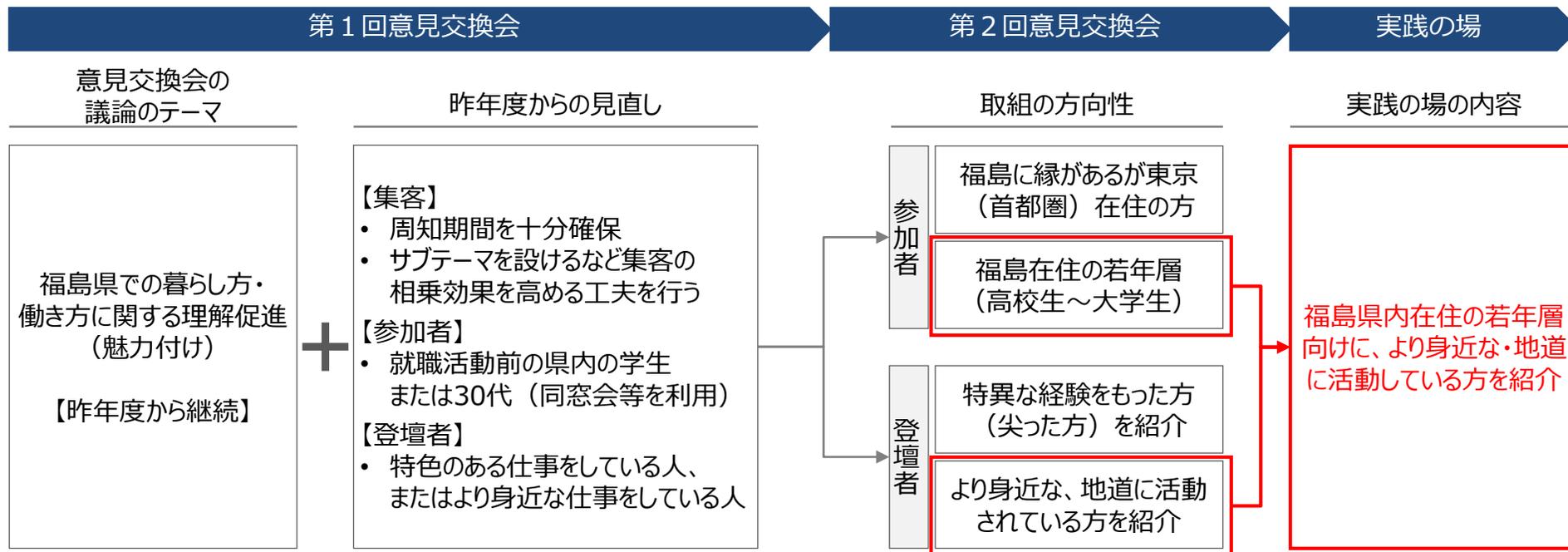


*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 2. 「実践の場」 企画背景

第1回・第2回の意見交換を通じて、福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）を目的に、福島県内在住の若年層に向けてより身近な・地道に活動している方を紹介する場を企画しました。



● 3. 「実践の場」概要

意見交換会やその後の登壇者との調整を踏まえて、以下の内容で「実践の場」を開催しました。

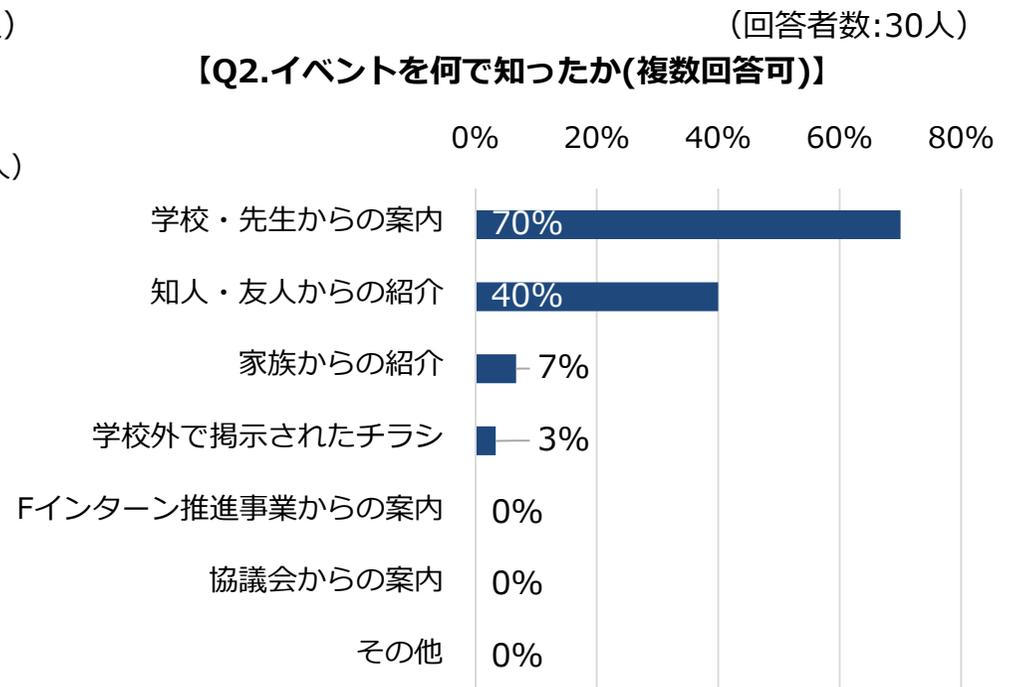
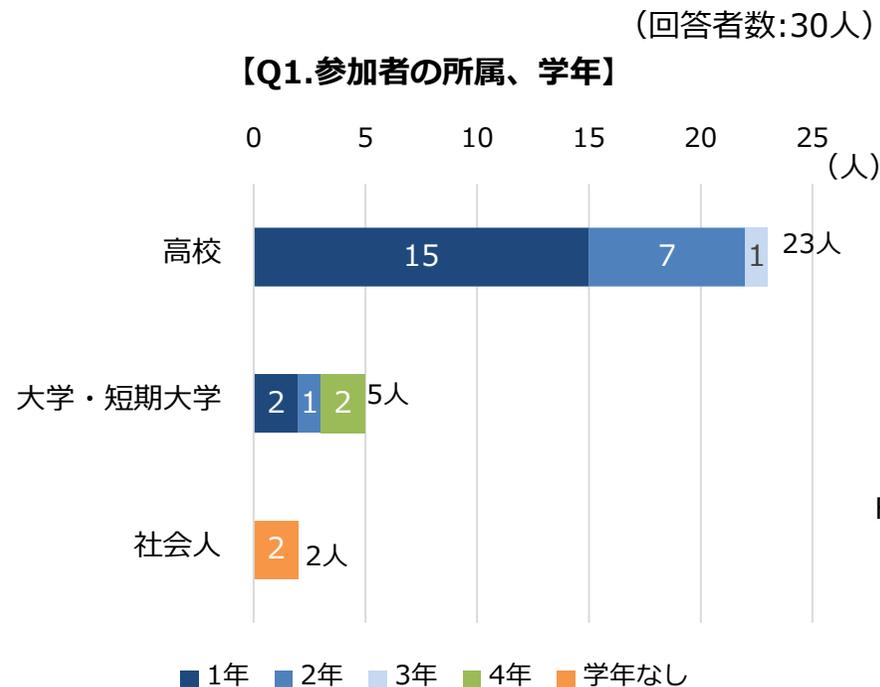
開催日時	2019年12月8日（日）13:30～16:00	開催場所	福島市 (福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」)
タイトル	ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～		
参加対象者	福島県内の高校生および大学生（福島県出身で県外在住の学生や、学校教員等の社会人の参加も可能） 特に以下のような方におすすめ ・ 進学や就職など将来のことをそろそろ考えようと思っている方 ・ 楽しく働いている話を聞いて、勉強や就活へのモチベーションを上げたい方		
実施内容	1. アイスブレイク、登壇者紹介 参加者同士が自己紹介や参加理由を話し、アイスブレイク。その後ファシリテーターから登壇者7人について紹介。 2. 車座トーク（2回） 登壇者1名を参加者3～6名が囲む車座形式のトークを30分×2回実施。 一方的に話すのではなく双方向に、そして近い距離で、対話することを目指す。 3. 個人ワーク 参加者それぞれの言葉やイラストで、自身の過去・現在・未来（3年後/10年後）を表現するワークを実施。 車座トークで聞いた経験談やアドバイス、自分が日々思っていることを改めて整理し、咀嚼するための時間。		
登壇者	<ul style="list-style-type: none">株式会社東邦銀行 石川 淳一 様株式会社タカワ精密 渡邊 光貴 様株式会社関美工堂 関 昌邦 様ファームつばさ 清水 大翼 様株式会社Blue porte 青戸 明美 様弁護士法人いわき法律事務所 菅波 香織 様一般社団法人Switch 久保田 健一 様		

● (ご参考) 当日の様子



● 4. 「実践の場」開催結果 — 参加者の特徴

高校生23人、大学生・短大生5人、社会人2名の合計30人が参加し、中でも高校1年生が15人で最多でした。学校・先生からの案内（70%）、知人等からの紹介（40%）で参加した方が大多数を占めていました。



● (ご参考) 集客方法について

台風19号の影響などで登壇者選定に時間を要しましたが、11月初日から集客を開始しました。意見交換会参加団体にもご協力いただき、昨年度の反省も活かして、様々なチャネルを通じて学生にアプローチを行いました。

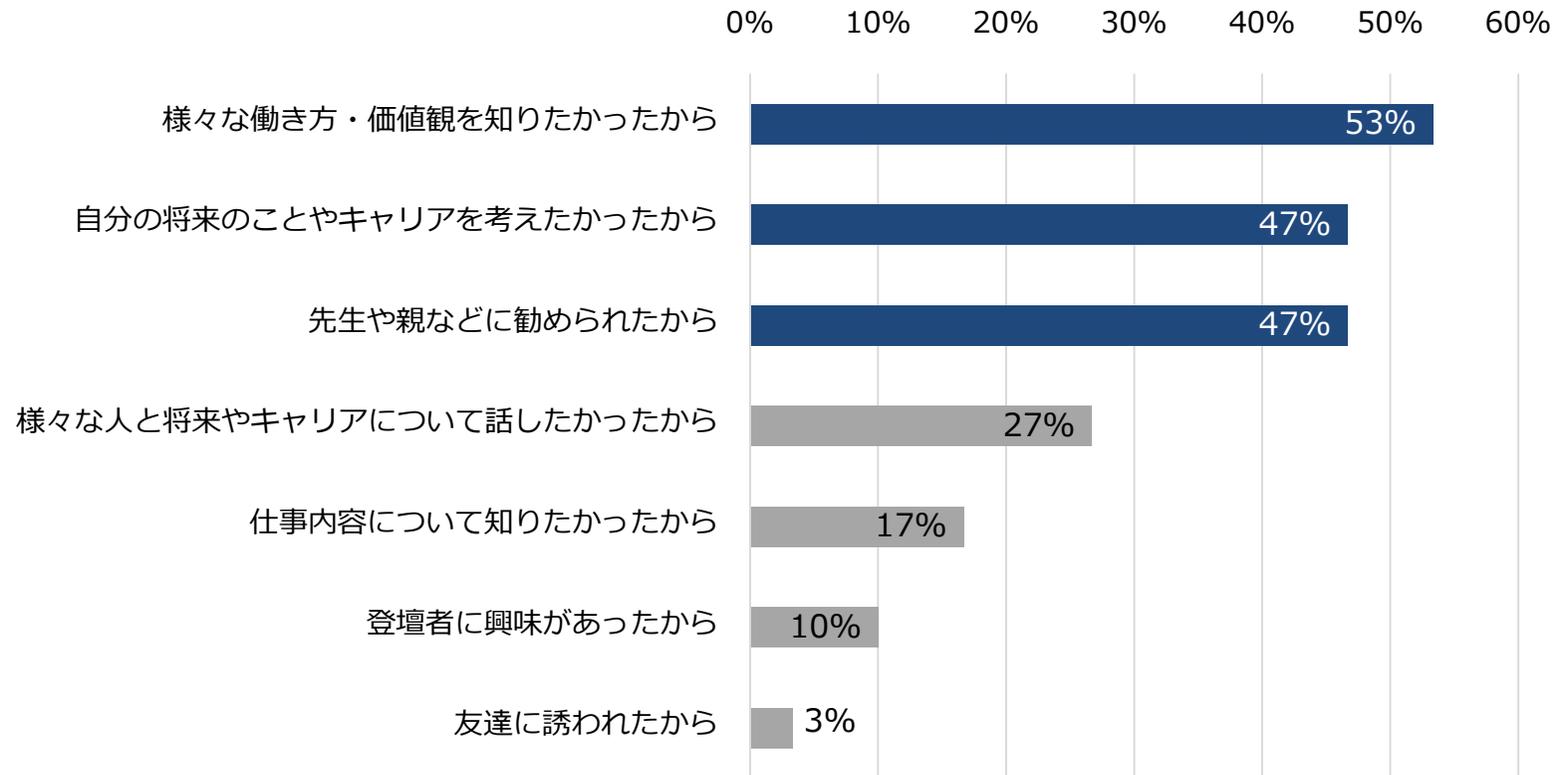
【主な集客実施事項】

高校・大学を通じて	<ul style="list-style-type: none">・ 県 橋様より、<u>大学関連担当や教育委員会の協力を得て</u>、アカデミアコンソーシアムふくしま加盟大学10校以上、県立高校80校以上に周知・ 事務局より、福島市と郡山市の高校・大学20校以上に賛同を得て、チラシ配布（約8,000部）やポスターの構内掲示を実施
直接学生に対して	<ul style="list-style-type: none">・ 東邦銀行 石川様より、福島高校等の学生へ参加を呼び掛け・ 福島大学 初澤様より、福島大学の学生へ参加を呼び掛け・ コースター 坂上様より、石川高校・尚志高校の学生へ参加を呼び掛け・ 事務局より、福島大学・福島学院大学の学生へ参加を呼び掛け
保護者等の大人を通じて	<ul style="list-style-type: none">・ 県 橋様より、県庁内イントラネット掲示板を通じてお子さんを持つ職員に呼び掛け・ 連携復興センター 遠山様より、連復のメールマガジンを通じて呼び掛け
マスメディアやSNSを通じて	<ul style="list-style-type: none">・ 県・復興局のご協力により、福島民友社、福島民報社にPR記事を掲載・ 県（商工労働部）のご協力により、190名が登録するキャリア支援機構の学生向けLINEにて情報配信・ 協議会より全国および県内のテレビ局・新聞社等14社にプレスリリース実施・ 協議会ポータルサイト、Fw:東北 Fan Meetingサイトなどにて情報配信
よく目にする場所で	<ul style="list-style-type: none">・ 福島駅周辺など街頭でチラシを配布・ 観光物産交流協会 櫻田様より、観光物産館にてチラシとポスターを掲示・ 学生が自習室等を利用する「アオウゼ」にてチラシとポスターを掲示

● 4. 「実践の場」開催結果 — 参加目的

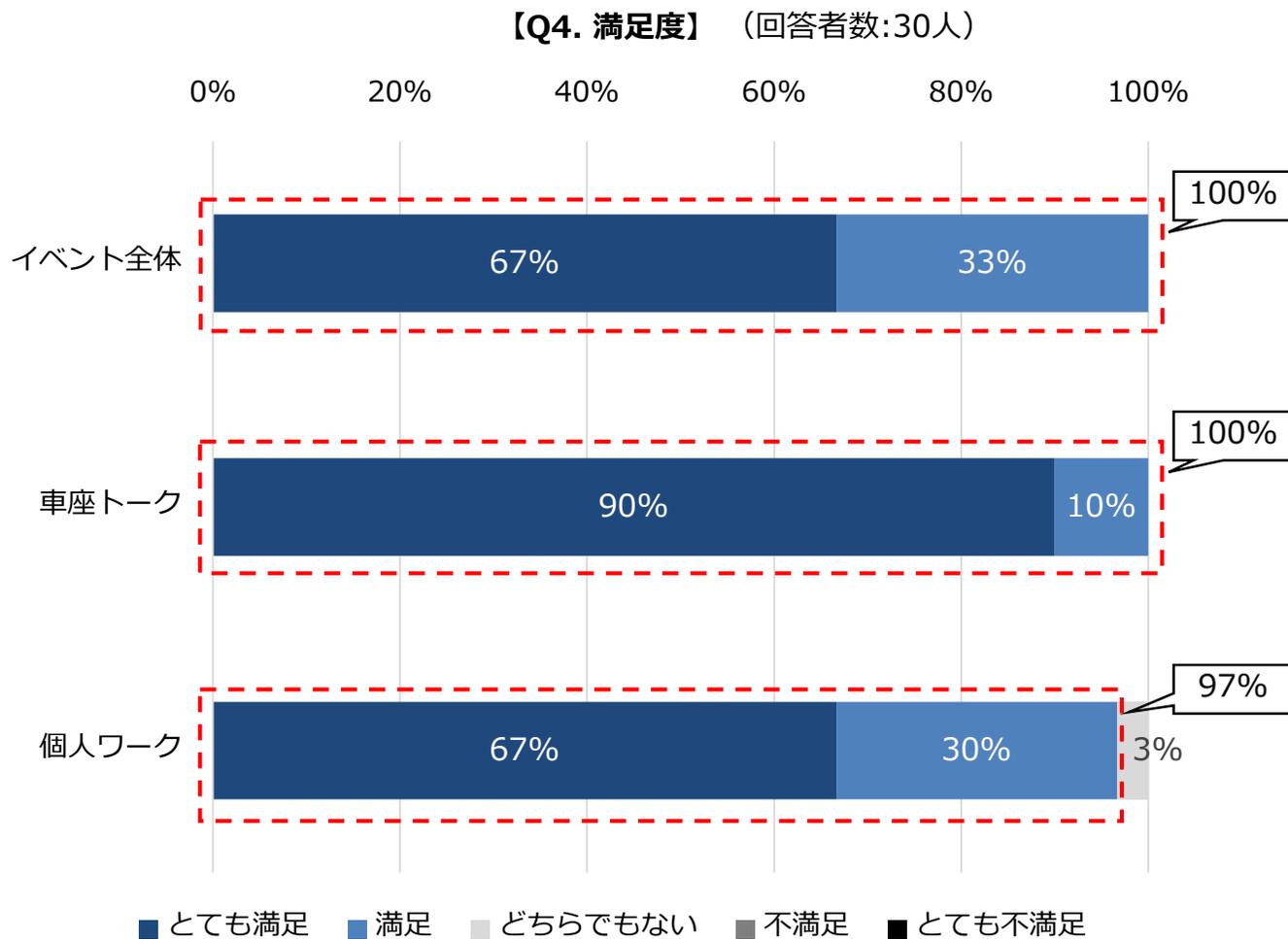
参加目的は「様々な働き方・価値観を知りたかった」（53%）が最も多く、次いで「自分の将来のことやキャリアを考えたかった」「先生や親などに勧められたから」（共に47%）が並びました。

【Q3.イベントに参加した目的（複数回答可）】



● 4. 「実践の場」開催結果 — 満足度

満足度に関して「とても満足」「満足」と回答した方が、イベント全体および車座トークでは100%、個人ワークでは97%でした。



● 4. 「実践の場」開催結果 — 満足度（頂いたコメント）

様々な登壇者から興味深い話を幅広く聞くことができた、自分の将来を考えるきっかけになった、もっと話したいので時間が欲しかった、というコメントを多く頂きました。

【Q5.満足度の理由（自由記述）】※要約を掲載

（回答者数:30人）

様々な登壇者から
興味深い話を幅広く
聞くことができた

- 普段会えない方、様々な職種の方から、いろいろな話を聞いてよかった、楽しかった
- 少人数で、双方向で話せたのがよかった
- 学校で教わることと違って、様々な進路の在り方や社会のリアルな話を知ることができた
- 視野が広がった
- 登壇者自身やその人生経験が面白かった

自分の将来を考える
きっかけになった

- 自分の将来像を考えることができた
- 親身に相談に乗ってもらえた、アドバイスをもらえた
- ロールモデルを見つけられた

もっと時間が
欲しかった

- 全員の話を聞きたい、参加者同士で話す時間がもっとほしい、などさらに欲が出てきた

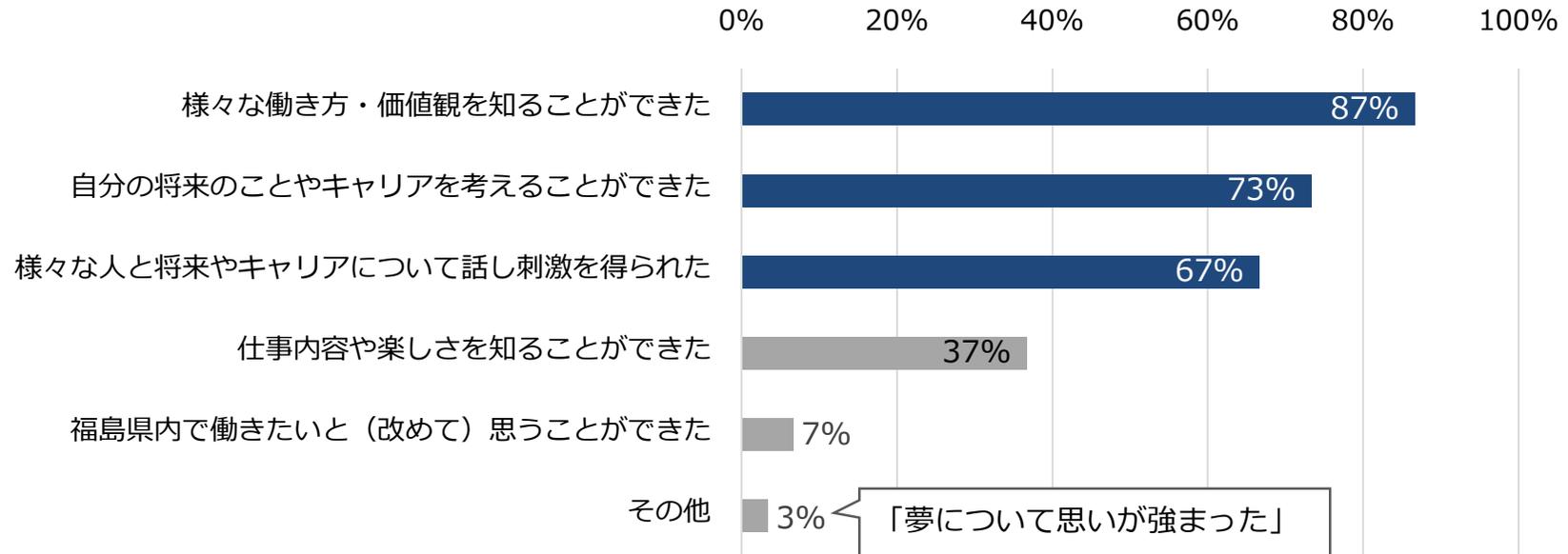
● 4. 「実践の場」開催結果 — 効果測定 (1/2)

「多様な働き方・価値観を知る」・「将来やキャリアを考える／刺激を得る」ことができた参加者は6～8割程度いたことから、イベントの狙い①は達成できたといえます。一方、狙い②に関しては、「県内で働きたいと思うことができた」と回答した参加者が1割未満に留まりました。

【本イベントの狙い】

- ①多様な働き方・価値観を知ってもらう
- ②（自身のキャリアデザインを考え、）県内で働くことの魅力・可能性を感じてもらう

【Q7.イベントを通じて得たこと、変化（複数回答可）】（回答者数:30人）



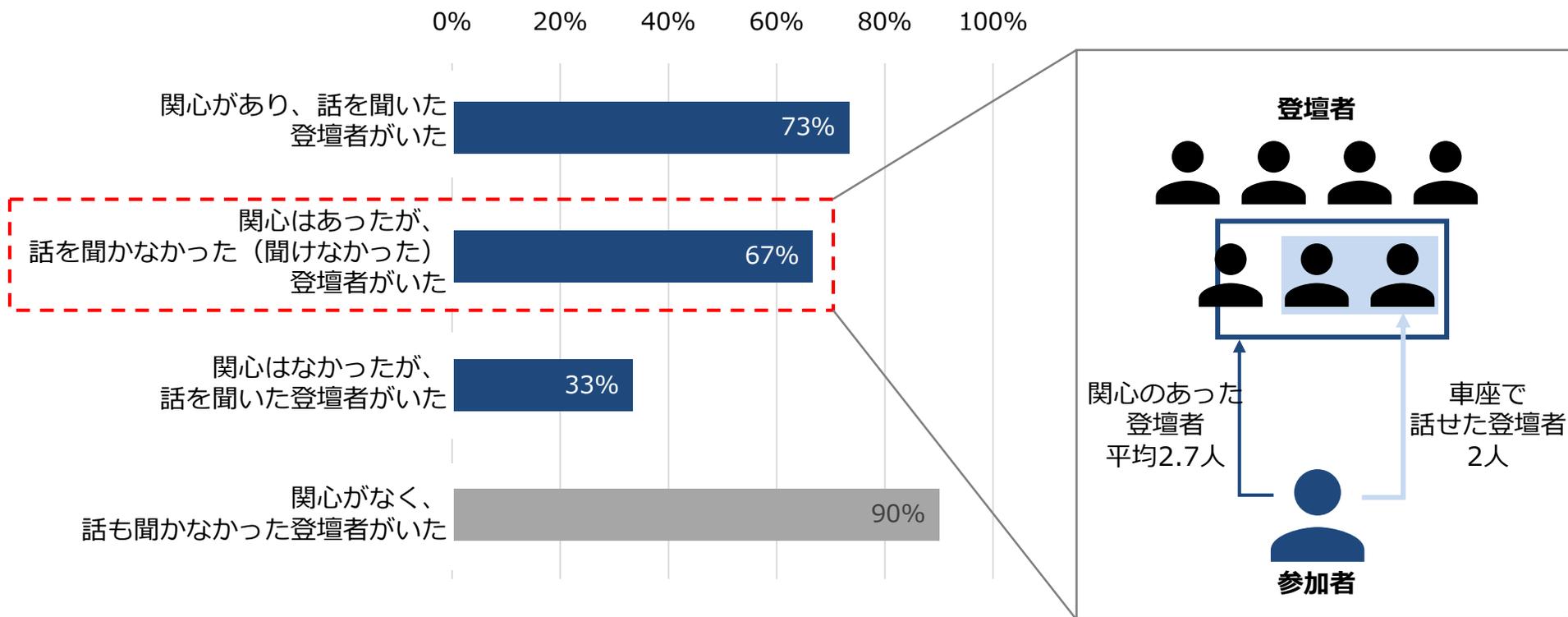
● 4. 「実践の場」開催結果 — 効果測定 (2/2)

「多様な働き方・価値観を知る」・「将来やキャリアを考える／刺激を得る」ことができた参加者は6～8割程度いたことから、イベントの狙い①は達成できたといえます。一方、狙い②に関しては、「県内で働きたいと思うことができた」と回答した参加者が1割未満に留まりました。

(回答者数:30人)

【Q6.関心のあった登壇者と、そのうち車座トークで実際に話を聞いた登壇者について】

※ (該当した参加者数÷全参加者数 (30人)) の割合で表示



※アンケートで、登壇者7名に対してそれぞれ「関心があったか」「実際に車座トークで話を聞いたか」を質問しました。

● 5. 次年度扱うテーマのアイデア

次年度の意見交換会テーマ「東日本大震災10年目に向けて」

次年度は震災からの9年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する
取組を意見交換会で企画・実践していきたい

【令和2年度 予定（案）】

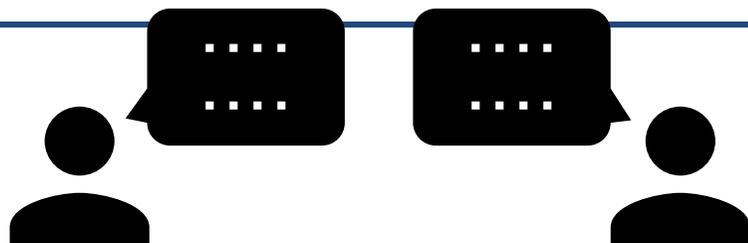
6月頃 第1回 意見交換会：イベント内容について具体的な議論を行う
秋 復興シンポジウム（仮）：政府主催、東京開催
実践の場イベント：協議会主催 被災3県で開催

● 6. 意見交換：「実践の場」の振り返りと次年度の取組

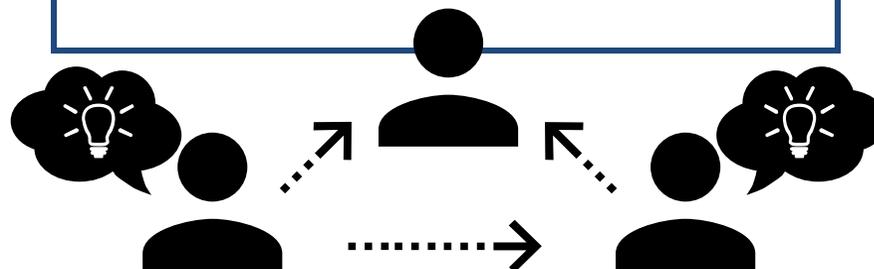
① 開催結果と次年度の取組みを踏まえて、今回の「実践の場」の良かった点・改善点・継続に向けた示唆についてご意見ください。

② 東日本大震災10年目に向けて、次年度の意見交換会ではどのような取組を行うとよいか、各団体の取組（予定や案も含む）を参考にしたアイデアについてご意見ください。

各団体が東日本大震災10年目に向けて実施していること、実施予定のこと、実施したいと思っていること、を共有



他団体の取組との連携も含めてできそうなこと・やってみたことのアイデアをブレストする



參考資料

● 岩手県「実践の場」概要

岩手県では「三陸沿岸における地域経済の担い手支援」をテーマとして意見交換を行った結果、三陸沿岸の経営者・次世代リーダーを対象とした事業成長セミナー・相談会・交流会を開催することとなりました。

開催日時	2019年11月25日（月）13:30～16:20	開催場所	大船渡市（市民交流館カメラホール）
タイトル	さんりく事業成長セミナー・交流会 ～オール岩手で経営層をサポートします！～		
企画趣旨	岩手県三陸沿岸の担い手不足解消に向けて、企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダー（起業検討中の方や先代からの事業承継を控えた方など）に対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援する取組を行うこととした。数多くある支援策の特徴や活用事例を知ってもらうことを目的とした、各機関の支援策を紹介するセミナーや相談会と、業界・セクターの枠を越えた経営層の繋がりをつくるための交流会を開催する。		
参加対象者	岩手県沿岸地域の経営層（経営者・次世代リーダー） ※沿岸地域で今後起業や支店開設等を検討している方も参加可能		
実施内容	【第1部 セミナー】 テーマごとに、支援のスコープ・アプローチの異なる団体が、支援策や事例を紹介。 ① 魅力発見～発信～人材確保（岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点） ② 資金調達（いわぎん事業創造キャピタル、岩手県復興局） ③ その他多様な支援策（いわて連携復興センター、岩手大学） 【第2部 前半：支援機関と経営層の相談会】 支援機関2,3団体がチームになって15分ずつ3テーブルを回り、各テーブルの参加者が抱えている事業の悩みややりたいことについて自由に相談。 【第2部 後半：経営層同士の交流会】 テーブルを離れてフリースペースで参加者同士（又は参加者と支援機関）が交流。		
登壇者 （順不同）	<ul style="list-style-type: none">岩手県 復興局 佐賀様（伊五澤様の代理）岩手県 沿岸広域振興局 横澤様岩手銀行 山崎様、川村様いわぎん事業創造キャピタル 及川様岩手大学 今井様いわて連携復興センター 葛巻様、瀬川様、高田様岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点 齊藤様大船渡商工会議所 小原様復興庁 益満、犬伏		

● 宮城県「実践の場」概要（予定）

宮城県では「沿岸地域の仕事の担い手不足解消」をテーマとして意見交換を行った結果、観光とSDGsを組み合わせた取組を地域一体で生み出すためのきっかけとして、集中検討会を開催することとなりました。

開催日時	2020年1月24日（金） 15:30～18:00	開催場所	東松島市（矢本西市民センター）
タイトル	牡蠣で東松島を盛り上げよう！ ～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～		
企画趣旨	宮城県沿岸地域の仕事の担い手不足解消に向けて、東松島市・観光に焦点を当てた取組を行うこととした。東松島の観光に関しては、人手不足よりも能力不足や継続的な連携を牽引する担い手の不足が課題であり、さらに、SDGs未来都市として市の住民や民間団体がSDGsを正しく理解し行動することが求められている。こうした現地の状況を踏まえ、観光とSDGsを組み合わせた取組を地域一体で生み出すためのきっかけとして、集中検討会（ワークショップ）を開催する。		
参加対象者	東松島市の観光産業に関心のある市民・民間団体 特に以下のような方におすすめ ・ 牡蠣を使った商品開発や観光ツアーの企画に興味のある方 ・ 東松島の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい方		
実施内容	1. 参考情報共有 議論の参考になる情報を参加者に対して共有する。 ・ 観光を取り巻く市場について（石巻圏観光推進機構より） ・ 東松島の観光、SDGsについて（東松島市より） ・ 東松島の牡蠣について（宮城県漁業協同組合 鳴瀬支所より） 2. ディスカッション 「東松島の牡蠣を用いた観光施策」をテーマとしつつ、サブテーマ別に6テーブルに分かれて、以下の①～④について検討する。特に④の検討を通じて、後日も活動が自立・継続することを目指す。 【①観光施策の具体案 ②関連するSDGsの指標 ③当該施策のキャッチコピー ④直近の実行計画案】 3. 最終発表 各チームで検討した①～④の内容を、全体に対して共有する。他のテーブルからは、深掘りや内容改善のための質問・コメントを伝えることで、全体での意見交換や相互理解の促進を目指す。		